

I 事業の概要（地域の実情含む）

※台風により訓練中止

- (1) 地域の現状を踏まえ、想定される災害についての理解を深めるとともに、災害から身を守る知識や技能を習得する。
- (2) 河川の氾濫等を想定したハザードマップの作成や非常時の行動について家庭で確認する活動等を通して、生徒や家庭の防災意識を高め、地域のために自分ができることを考え実践しようとする態度を養う。

- (5) AEDを用いた心肺蘇生法
(学年別による救急救命法)

- ①1年生47名参加【10月11日】
学習内容
・AEDを用いた救命法
・心肺蘇生法



II 取組の概要

- (1) 避難訓練（地震）【5月1日】
避難経路確認および避難場所の確認をし、訓練を実施。

- (2) 非常時の炊き出し訓練【8月2日】



九戸村主催の、非常時の炊き出し、毛布を用いた担架の作り方、三角巾による救急法などの訓練を受けた。

- (3) 避難訓練（地震）【9月3日】
授業中ではない時間に実施し、各自避難経路を確認し避難場所に集合する訓練

- (4) 九戸村総合防災訓練【9月30日】
訓練内容（予定）

- ① 避難誘導
- ② 避難者名簿の作成
- ③ 消火器を用いた消火訓練
- ④ 応急食料炊き出し訓練
- ⑤ 応急電源供給
- ⑥ 給水車による給水補助
- ⑦ ボランティア窓口設置補助
- ⑧ 心肺蘇生法訓練

- ②2年生25名参加【10月16日】
2年生25名参加【10月17日】
学習内容
・AEDを用いた救命法
・心肺蘇生法
・止血法
・異物除去



- ③3年生48名参加【11月5日】
学習内容
・AEDを用いた救命法
・心肺蘇生法
・止血法
・異物除去法
・防災に係る講話

(6) 「復興教育パネル」展示



沿岸部の被災の様子とその後の復興の様子を写した写真を展示。被害を受けた街に津波対策が施され、建物が建設されていく街の移り変わりや、沿岸部で元気に生活する中学生の様子を通して復興の様子を確認した。

(7) 防災にかかわる講演会【2月18日】

二戸消防署九戸分署の消防士による講話
講話内容

- ①東日本大震災の活動の様子
- ②災害時における対処法
(地域で予想される災害の対処法)

(8) ハザードマップの作成



拡大コピー機を用いてハザードマップを作成し、校内に掲示するとともに、村内小・中学校へも配付した。マップの前で立ち止まり、友だちと話題にしている様子が見られた。

授業参観等の学校行事で保護者が来校した際には、保護者の目にとまりやすい所に掲示した。授業参観後のアンケートには、「家の周辺や通学路で危険な場所を親子で確認するきっかけとなった。」といった記述が見られた。

Ⅲ 取組の成果と課題

1 成果

- (1) 生徒の防災意識を高めることができた。本村では、今夏の豪雨により市街地の川が氾濫し国道が通行止めになる、学校のすぐ近くがけ崩れを起こすなどの被害があった。生徒

達はハザードマップにより、身近な場所で起こる可能性がある災害の種類や危険箇所を確認することができた。

また、2月実施の防災にかかわる講演会により、具体的な避難方法やその対処法をさらに学ぶことができた。

- (2) 炊き出し訓練により、非常時には中学生が避難所の支援に加わることができるようになった。九戸村の防災体制の強化に役立っているものと思われる。
- (3) 年度当初に生徒達は学年も変わり、新たな教室で学習することになるが、避難訓練により避難経路の確認を行う事ができた。また、授業中ではない避難訓練においても、各自の判断で避難場所に集合させることを通して、災害はいつ何時やってくる可能性があることを意識させることができた。
- (4) 復興教育パネルによって、東日本大震災の被害や復興の過程を確認することができた。生徒の被災時の年齢が下がってきており、震災記憶も薄れてきている。パネルや予定している講演会により再度震災について振り返る機会とする。
- (5) 全校生徒に救急救命法の訓練を行う事ができた。いつ何時人を助ける機会が訪れるかもしれない。その様な時冷静沈着に対処し、人の命を救うことができる事を想定し訓練を行う事ができた。

2 課題

- (1) 残念ながら、九戸村総合防災訓練は台風のために中止になった。本格的な訓練であるために、生徒が訓練に参加できていたら、防災意識のさらなる高まりと災害時における具体的な行動を体験できるはずであった。災害時における中学生の地域での貢献の仕方について、役割の自覚を高めていくこと。
- (2) 校内での防災意識や避難の方法はある程度身に付けられたと思われるが、更に親子で防災について話し合う機会や取り組みを設けることを通して、家庭での防災強化も図っていくこと。
- (3) 防災意識については生徒によって開きがある。自主参加の訓練への参加度合いなどによっても生徒の意識は異なるが、更なる取り組みによって、生徒全員の防災意識の向上を図っていくこと。